

○10番（田山文雄君） 皆さん、おはようございます。議席番号10番、田山文雄でございます。議長より発言の許可をいただきましたので、一般質問させていただきます。

また、今日は朝早くから、傍聴の皆様には議会に足を運んでいただきまして、大変にありがとうございます。また、橋本町長におかれましては、4期目の当選誠におめでとうございます。

今定例会においては、新年度の予算委員会も開催されますが、私も議員になったとき、橋本町長が町長に就任前というのは80億の予算規模が通常でした。今回の予算では188億、また前年度の決算でも300億を超えるような予算が計上されるなど、町長の手腕で町が大きく変わっていることが実感できます。境町民はもとより、これからの新たな町政に対しての期待が大きくなりますので、またよろしく願いをいたします。

それでは、質問に入らせていただきます。まず、1項目めの買物弱者の支援についてお伺いいたします。当町においては、自動運転バスやA I デマンドバスの導入において、買物弱者に対しても施策が行われています。近隣でも、多くの自治体が民間と連携しての移動スーパーを導入もしています。この買物難民の問題は、単に食料品が手に入らないというだけでなく、栄養不足による健康悪化や外出機会の減少によるフレイル（虚弱）の進行、ひいては孤独死のリスクにも直結する極めて重要な課題でもあります。この移動スーパーは、単なる物販にとどまらず、見守り活動や地域のコミュニティ形成、さらには特殊詐欺防止の啓発といった役割が期待もされています。最近では、隣の坂東市でも民間と連携して移動スーパーが導入され、高齢者から喜ばれているとの声も聞きました。当町としての考えをお伺いいたします。

次に、2項目めの子供の自殺防止対策についてお伺いをいたします。3月は、政府が指定する自殺対策強化月間となっていますが、大変残念なことに2025年の自殺者数は、暫定値として全体が1万9,907人と減少傾向にはあるものの、小中高生に限れば532人と、統計のある1980年以降で最多となりました。多くの場合、自殺の要因は複合的で、家庭や学校を通じて人間関係の悩みを抱える中で心の健康が悪化し、自殺に至っているケースは十分に考えられます。そんな中、苦しい思いを誰かに打ち明けると心がすっと軽くなることもあります。1人で抱え込まないことが大切で、そのための様々なツールもあります。子供たちの自殺リスクを早期に把握し、必要に応じて適切な支援につなぐ体制も必要であるというふうに感じています。

前回質問した折には、教育委員会からいばらき「心の健康観察」のシステムを導入して、運用後の効果も検証していく方向で検討との答弁もありましたので、そのことも併せて当町の取組についてお伺いをいたします。

以上、2項目2点についての1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） 最初に、買物弱者の支援についての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君） おはようございます。それでは、一般質問の答弁に入る前に、斉藤議員、さらには飯田議員、そして青木議員につきましては、功労者ということで表彰されましたことを改めて、町を代表してお祝いを申し上げたいというふうに思っております。

それでは、答弁に入らせていただきます。先ほど田山さんの質問見たのです。もうちょっと前に見ていますが、回答見たら、何か回答にならないような回答だったものですから、まずお謝りをさせていただいて、まずカスミさん、近隣であれば古河市をはじめ坂東市、常総市、八千代町でも買物の車をやっているわけです。なので、例えば境町でどうやったらできるのだからカスミさんに質問したのかと言ったら、していないと。今させています。今現状で、先ほど指示をして今させていますので、可能性としては境町を除くところはみんな周りやっていますから、多分どういうふうな形にしろ、やれなくはないのだろうというふうには思っています。

それともう一つは、やはり買物弱者と呼ばれる人たち、こういう人たちの声をもっと吸い上げなくてはいけないのではないかと。今境町の場合には、先ほど田山議員の質問の中にもあったとおりデマンドのバスだとか、そういうのがあるものですから、境地区以外の方々であれば、最短で1日前に予約していただければスーパーにもドア・ツー・ドアで送っていただけるという仕組みがありますので、そういった形で使っていただければ大丈夫なのですけれども、やっぱり知らない方もいらっしゃるし、回ってきていただくと、そのほうがありがたいのではないかなという意見もあると思いますので、やはりこういう町民の皆さんの声をまず吸い上げさせていただいて、同時にカスミさんとかそういうスーパーさんのほうとは、そういう買物カーができるかどうか、そういったことも同時並行で進めていけば、町民の皆さんからの声があって、そして導入したという形が一番いいと思いますので、そういった形で調査をしながら、そういった声が大きい場合にはもう導入していこうということで進めていければと思っていますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 町長から調査してという話で、大変ありがたいと思うのですが、そこで聞いた話だと、やっぱり境のカスミさんが、五霞行ったり坂東行ったりやっているわけです。なかなか坂東市がちょっと行きづらかったというのは、ほかのスーパーがあってカスミさんが一件もなくってという、そういう現状があってなかなか入りづらかったって話も聞いているのですが、境の場合は2店舗もあって、非常に入りやすいのではないかなと思います。しかも、これ行政の負担は、何か聞いている話ですとないのです。ただ、行政がここでという場所だけ提供してもらえれば、そこにカスミさんが入って、なかなか採算取れなかったら民間だとすぐやめてしまうかもしれませんが、そういったこともありますので、ぜひちょっと調査していただいて、あと行政区にここできますよって話がもうまくできるのであれば、それは進めていただければなと思います。前々から、本当にカスミさん2店舗あるのに、何か境で回らないって非常にちょっともったいないなあってずっと思っていたも

のですから、ぜひよろしく願いいたします。

またあわせて、本当に町長言われたようにデマンドバス、大変やっぱり皆さん喜んでいます。言われたように周知の部分で、ちょっと僕なんかもチラシ余計にもらって配ったりもするのですが、これぜひ使ってくださいよって話でやるのですけれども、町民の皆さんにとって本当にありがたいなという感じはします。

あと、やっぱり自動運転バスもそうです。今たまたに見かけると、本当に買物しているという雰囲気のおばあちゃんよく見ます。だから、本当にだんだん町になじんできたなという感じはすごくします。本当にありがたいなと思います。そういった意味で、もうデマンドがあって、自動運転バスがあってという部分もあるのですが、ぜひこの辺の部分も進めていただければなと思いますので、ちょっと要望をまたしまして、この質問はこれで終わりたいと思います。

○議長（倉持 功君） 以上で買物弱者の支援についての質問を終わります。

次に、子供の自殺防止対策についての質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長 大竹良彦君登壇〕

○教育次長（大竹良彦君） 皆さん、おはようございます。田山議員の2項目め、子供の自殺防止対策についての子供たちの自殺リスクを早期に把握し、必要に応じて適切な支援につなぐ体制が必要であるが、当町の取組について伺いたいとのご質問にお答えいたします。

子供の自殺リスクを早期に把握するため、各学校では定期的な生活アンケートの実施、スクールカウンセラーへの相談、保護者との連絡帳での情報交換などにより、児童生徒の小さな変化やSOSを受け取るようにしております。例えば境第一中学校では、長期休業の直前に自殺防止を促すマチコミメールを全保護者に配信し、家庭における見守りを促しております。

令和6年第3回定例会におきまして、田山議員からの質問の際に導入を検討している旨答弁いたしましたいばらき「心の健康観察」につきましては、実施する頻度や範囲の柔軟な設定が可能なことから、猿島小学校では毎日、長田小学校では月の第2週に実施しております。静小学校では月に1回実施しており、自分の心身の状況を曇りと雨とした児童については担任が速やかに面談し、困り事や悩みについて確認しております。

境第二中学校では、校内フリースクールを利用している生徒は、入室時に必ず実施することとしております。その効果といたしましては、学年を取りまとめている担当者から担任への伝達を通して、児童への支援や観察に生かしている。全職員で情報を共有し、児童への配慮や支援に生かしている。児童が自分の気持ちを客観視できるといったことが挙げられております。

また、境小学校では、やはり1人1台端末を活用して校内オンライン相談窓口を開設し、児童の心の健康について把握に努めているところです。

次に、自殺リスクのある子供への支援につきまして、例えば長田小学校においては、学級担任や学

年担当が生活アンケートの書き込みや変容の見られる児童への個別面談を実施するとともに、人権週間に人権集会や人権メッセージ作りを実施し、各学級で指導、啓発を行っております。また、今年度、森戸小学校、静小学校、境第一中学校、境第二中学校では、医師や助産師を講師として招き、命の大切さを学ぶ機会を設けております。

このほか、子供たちが身近な大人以外に相談する場としまして、茨城県が設置しております子供専用相談窓口であるいばらき子どもSNS相談や子どもホットラインなどについて、リーフレット等の配布などにより周知に努めているところでございます。

今後とも引き続き日々の児童生徒の観察、1人1台端末の活用などを通して児童生徒の自殺リスクの早期把握に努めるとともに、長期休業が明ける時期が自殺リスクの高まる時期とされていることから、特にその時期に気になる児童生徒の心のケアに当たるなど、子供の自殺防止対策にしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） さっき質問の中でも入れましたけれども、茨城の何でしたっけ、茨城の心というやつありましたよね、要するに天気で判断してという。ちょっと僕その内容がよく分かっていなくて、晴れ、曇り、雨とかそんな感じで、ただそれだけ選んで判断していくと、そんなような内容なのですか。また、さっき境小学校では一人一人の端末で相談窓口を設けているという話があったと思うのですが、これは境小だけなのですか。ほかのところは、それは違うのですか。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（大竹良彦君） ご質問にお答えいたします。

いばらき「心の健康観察」につきましては、子供たちが自分の心身の状況を晴れ、曇り、雨というような表示で入力して、それを学校が把握するということになっております。例えばずっと晴れで来た子供が急に曇りとか雨になった、あるいは曇りだったのが雨になったとか、そういった変化のあったときに、どうしたのということで声をかけるような、そういう活用の仕方をしていて把握しております。

また、境小につきましては、この心の健康観察もすばらしいのですけれども、学校の規模とか実態によって使い方いろいろあると思いますので、境小においては独自の校内オンライン相談窓口というもので対応していると、そういうふうに捉えております。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） やっぱりお子さんの自殺に至る経緯というのは、大人とちょっと違って衝動

的に、何か期間が短いというのです。悩んでからその行為に至るまでといいますか、そういった突発性がちょっとあってという話もあって、そういう中でやっぱり一番大事なことって、誰かに相談していく、それだけでも心が軽くなるということがあると思うのです。

さっき聞いていて思ったのが、やっぱり境小学校だけが、規模でという話でしたけれども、相談窓口のラインといいますか、窓口があると。せっかくみんな端末持っているのだから、それは町に一元化ってできないものなのですか。例えばほかの小学校に通っているお子さんも、何か悩んだときにそこに相談できるように一元化できるような、そんなふうにはできないものかなと思うのですが、その辺はどうなのですか。

○議長（倉持 功君） 質問に対する答弁を求めます。

教育長。

○教育長（栗原恵子君） それでは、田山議員の質問についてお答えいたします。

ただいま境小だけということで答弁をさせていただいたところでございますが、やはり全学校必要な体制づくりをしていかなければいけないと考えております。ですから、早急に全学校が一元化、町として把握ができて、そしてホットラインとして相談ができるような、そういった窓口をきちんと開設をさせていただきまして、子供の命をしっかりと守っていこうというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） ありがとうございます。そうなのです。本当に大事なお子さんですから、たった一件でもそういう事件があったら大変な問題になりますので、ぜひ早急にそういった形を取り組んでいただきたいということを要望いたしまして、一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（倉持 功君） 以上で、田山文雄君の一般質問を終わります。